

Mint Club



財務省造幣局



独立行政法人造幣局について

平成15年4月、財務省造幣局は独立行政法人造幣局に変わります。

1. 独立行政法人とは？

独立行政法人は、平成8年に検討を開始された中央省庁等改革の一つとして、国が行わなければならない仕事の見直しにより、国とは別のルールで仕事をした方がより効率的と判断された事業について、国から切り離し、新しい組織の下で仕事を進めるために設けられた組織です。

平成13年4月から順次独立行政法人が設立されており、造幣局は61番目の独立行政法人として、平成15年4月の移行・設立が予定されています。

2. 独立行政法人になると何が変わることか？

国が仕事を行うときは、事前に慎重な手続が必要とされたり、いろいろな法律に従って仕事をすることが求められています。これは国が国民一人一人の大切な税金を使って仕事をすることから、無駄や不正な税金の使用を防ぐために行われていることです。しかしながら、こういった慎重な取り扱いの必要性が、結果として、国民の要望に対する対応を遅くしたり、また、国の中で働く人にとっても、色々な工夫の実行を難しくするといった、創造的な勤労意欲を妨げることがありました。

独立行政法人は、国の仕事のうち実務的な部分を中心に行う組織として設立され、お客様に対応する実行部分については、国とは別のルールの下で仕事が出来るようになっています。そのため、仕事のやり方に不都合があれば、そのやり方を独立行政法人の裁量で変更するなど、柔軟性に富んだ運営ができるように工夫されています。また、仕事の出来、不出来などによって評価が行われることになっており、働く人それぞれが知恵をしづって、よりよいサービスを提供しようという意欲をわかせる工夫をしています。

このように、新しい組織の下で、国民の皆様の声を取り上げやすく、しかも、すばやく、より良いサービスを提供できるようにしようというのが、独立行政法人設立の目的です。

3. 独立行政法人造幣局の業務内容

独立行政法人造幣局（以下「造幣局」という。）は、全額政府出資の法人として設立されます。

造幣局の行う業務は、これまで財務省造幣局として行ってきた①貨幣の製造、②貨幣の販売、③勲章等の製造及び金属工芸品の製造・販売、④貴金属の精製・品位証明等、などに加え、貨幣に対する信頼を維持するために必要な情報の提供等を行うことになっています。

4. 独立行政法人になって造幣局はどう変わるのか

造幣局の業務は大きくは変わらないものの、それを実行していく仕組がこれまでとは大きく変わります。

皆様の関心が深い貨幣の販売について触れますと、まず、これまで造幣局が皆様に貨幣セット等を販売する場合、郵便局での払込ができない、クレジットカードでの支払いができない、などご不便をおかけしてきましたが、今回の独立行政法人化に伴い、郵便局での払込やコンビニでの支払いをはじめクレジットカードでの支払いもできる仕組にしたいと考えています。

また、皆様への注文品のお届けも、業務処理を迅速化し、入金から商品の発送までの所要期間をこれまでより短くしたいと考えています。

さらに、記念貨幣についても、従来以上に幅広く発行する機会を持てるよう提言を行っていくとともに、皆様のニーズに即応したさまざまな貨幣セットを企画していくつもりです。

なお、お客様のご要望や市場動向を的確に把握し、その要望等の実現に努めたいと考えていますので、アンケート調査等を行いますときには、ご協力方よろしくお願いします。

5. 終わりに

このように、造幣局は、独立行政法人になることに伴うメリットを生かし、皆様により質の高いサービスを提供することを目指しています。

今後ともよろしくお願いします。

北京国際郵票銭幣博覧会

去る平成14年9月26日(木)から29日(日)まで、中華人民共和国北京市において北京国際郵票銭幣博覧会 (Beijing International Stamp & Coin Exposition) が開催され、当局からもブース出展を行いましたので、その模様を簡単に御紹介したいと思います。

1. 北京国際郵票銭幣博覧会とは

この博覧会は、名称にあるとおり貨幣と切手の展示及び販売を行う博覧会で、かつては上海等の中国主要都市で持ち回り開催されていましたが、最近では開催地を北京に固定して開催されています。アジアで最も大規模で活気あるコインコンベンションのひとつですが、当局は今回が初めてのブース出展となりました。

会場となった中国国際貿易センターは、北京の中心ともいえる天安門から5kmほど東にあるビジネスエリア「国貿」にあります。国貿近辺の光景はまさに近代的で、普段我々が抱いている中国のイメージとは大きく異なり、躍進する中国を感じさせるものでした。

2. 北京国際郵票銭幣博覧会の模様

この博覧会に初参加するということで主催者が配慮してくださいったのか、当局はお客様の目に触れやすい角地にブースを設けることができました。角地であるため2本の通路に面した両面にショーケースを置くことができ、より多くの製品をお客様に見ていただくことができました。また、日本の秋をイメージした飾り付けを行い、「日本の」造幣局ということをアピールいたしました。一方、中国の造幣局である「中国印鈔造幣総公司」や、中国の記念貨幣の企画立案及び販売を行う組織で、この博覧会の主催者でもある「中国金幣総公司」等の中国の出展者は、ブースの規模も大きく、飾りつけも中国らしさを前面に打ち出した豪華な装いで、来場者の目を楽しませてくれていました。

博覧会初日は開場直後にかなりの人が押し寄せ、開店準備が整ったばかりの当局ブースも職員がひっきりなしに対応に追われる状況でした。英語が通じない

お客様が殆どであるため、現地学生の方に通訳兼販売員として来ていただき、お客様への商品の説明等を手伝っていただきました。期間中の入場者数については、主催者側の公式発表がなかったため正確なところはわかりませんが、1人30元（日本円で約450円）という中国としては高額の入場料を徴収し、更に1日当たりの入場者を2千人程度に制限し、少しずつお客様を入場させていたようで、そのためか開幕直後を除いて会場内は落ち着いた雰囲気となりました。かつては、来場者が殺到してショーケースのガラスが割られたりするなどのトラブルも多かったようですが、そういうトラブルも殆どありませんでした。

この博覧会には、中国の造幣・切手関係の業者をはじめとしたアジア圏からの参加者が中心となっていましたが、アジア圏のみならずヨーロッパの造幣局等から多くの参加がありました。出展者の中には、販売用貨幣の展示のみを行い、販売は行わないというところも見られました。こうした出展者は、世界中から貨幣関係者が集まるこの博覧会を販売の場としてではなく、商談の場として位置付けているようでした。

当局は直接貨幣セット等の販売を行いましたが、お客様は製品に対する目も厳しく、購入した貨幣セットをじっくりとその場でチェックして、少しでも納得がいかないと別のものに交換してほしいとおっしゃる方も少なくありませんでした。また、どれが将来値上がりしそうかといった質問もあり、貨幣収集コレクションのみならず、財テクの対象としてみている方も相当いらっしゃるようでした。これも昨今の中国の変化を反映したものなのかもしれません。また、年配の方、若いカップル、社会見学と思われる小学生の団体等、様々な年齢層のお客様が来場されるのを見て、中国の貨幣市場は今後も順調に発展していくのであろう、と感じた次第です。

今後とも、海外のお客様の声が直接聞けるこうした博覧会等の機会を活用して、より多くの方々に喜ばれる製品開発・販売活動に取り組んで参りますので、皆様の御理解を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



第2回も引き続き、記念貨幣を紹介します。
写真は現在東京支局で勤務している工芸職員です。

左のページで紹介しましたように、皇室関係の記念貨幣は、
日本画家でもあり、東京芸術大学学長でもある、平山郁夫先生の
御指導を受けています。
このコーナーでは、平山先生の特集を紹介します。



記念貨幣

貨種別	原図製作者	原型製作	発行年
⑨ 天皇陛下御在位60年記念 100,000円金貨幣	表裏 平山 郁夫	表裏 松岡 隆範	昭和61年 昭和62年
⑩ 天皇陛下御在位60年記念 10,000円銀貨幣	表裏 平山 郁夫	表裏 中村 和彦 松岡 隆範	昭和61年
⑪ 天皇陛下御在位60年記念 500円白銅貨幣	表裏 谷口 俊弘 平山 郁夫	表裏 川隅 重美 松岡 隆範	昭和61年
⑫ 青函トンネル開通記念 500円白銅貨幣	表裏 谷口 俊弘	表裏 松岡 隆範 片野 章	昭和63年
⑬ 濱戸大橋開通記念 500円白銅貨幣	表裏 谷口 俊弘	表裏 川隅 重美 片野 章	昭和63年
⑭ 國際花と緑の博覧会記念 5,000円銀貨幣	表裏 谷口 俊弘 辻 喬介	表 川隅 重美	平成 2年



中村和彥
(工芸指導官)



片野 章
(工芸専門官)



5

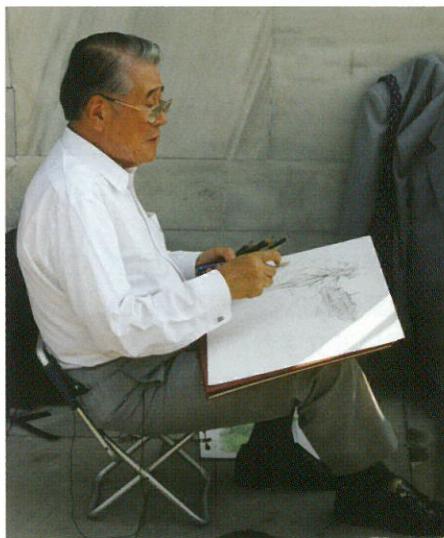
12

13

14



平山先生には、天皇陛下御在位60年記念金貨幣の原画から御指導いただきました。
この他にも裏面も手掛けていただきました。



スケッチをされる平山先生



原画は額に装丁して造幣博物館(2F)の特別コーナーに展示していますので是非御覧下さい。

6

貨幣と兼好法師



三上 隆三
和歌山大学名誉教授
経済学博士

中世日本きっての知性人といえば、鎌倉末期から南北朝期にかけて活躍した吉田（ト部）兼好（1282～1350年）であるとしても異論のないところだろう。その兼好といえば名隨筆集『徒然草』の作者として誰知らぬ人とてない。ところがである。ほかならぬこの人物が冷泉派・京極派と拮抗する二条派に属する、しかも和歌四天王のひとりとまでよばれる勝れた歌人でもあったことは、あまり知られていないようである。

よも涼し ねざめのかりほ た(手)枕も
ま袖も秋に へだてなきかぜ

これがその令名高き兼好の短歌そのものなのである。もとより私には和歌についての素養もなければ作歌への意欲もなにもないゆえの平凡な人間のためなのかもしれないが、この兼好歌をよんでもなんの感動もわかないどころか、単なる秋の夜の一描写にすぎず、その上に手足をしばられているとでもいうか、とにかく伸々したところの全く感じられない单なる和歌に思われた。しかし当初のこのような私見も、この短歌の性格を知るやそれらは一挙に氷解してしまったのである。

いうところのこの兼好歌は、実に凝りにこった折句歌だったのである。今さら拙文の読者に解説するのも失礼千万とは思いつつも、物事の順序として折句歌について簡単に言及しておきたい。

和歌というものは、ご承知のように「みそひともじ」ともよばれているように、それを構成する三十一の言葉が五・七・五・七・七に分割されて形成する初句・二句・三句・四句・詰句の五句からなり、その各句のはじめに五字よりなる任意の言葉を一つずつ折込むことで競いあう和歌であるところから、和歌一般に対してこれを折句歌とよんで区別するわけである。

この素直とでもいうか单なる折句歌をより興味深いものにするために、これまでのよう各句の頭に五文字からなる任意の言葉を折込む—これを冠（かんむり）という—だけではなく、更にその上に同じ五文字からなる任意の言葉をそれぞれ詰句・四句……と逆の順で各句尾にも折込む—これを沓（くつ）という—ことで往復とでもいうか二重化された複雑な新型折句歌が出現する。当然ながら読者は先ず前から冠にあたる言句を拾い出し、ついで逆行して沓にあたるものを見つけてそれを拾い出すのであるが、なぜか国文学界ではこの新型折

句歌のことを逆とも思える沓冠とよぶらしい。その理由は知らないのだが、とにかく高度の作歌テクニックの必要は多言無用のところ。わが兼好法師の和歌がほかでもないこの新型折句歌そのものだと聞かされると、上記の和歌はこれを驚きの気持で見直さざるをえなくなる。そして成程、流石に兼好法師のすぐれた折句歌だと恐れいるばかりになるのである。

こんなことを長々と書いていると、オイオイ、吾々ミント・クラブの会員は貨幣にまつわる興味あふれる話こそ読みたいのであって、国文学の話は早くやめてくれとの叱りの言葉が聞えてきそうである。願わくばいましばしの時間を!!

新型折句歌のルールによって兼好歌をよむと冠（●つきの文字群）として「よね(米)たまへ」のメッセージが、逆行しての沓（▲つきの文字群）として「ゼに(銭)もほし」の情報を知ることができる。この兼好歌は作歌ライバルの親友たる頓阿に出されたものである。

これをうけた頓阿もさるもの、兼好に早々に同じ新型折句歌を返歌として贈った。

よもうし ねたくわがせこ はては来す
なほざりにだに しばしそいませ

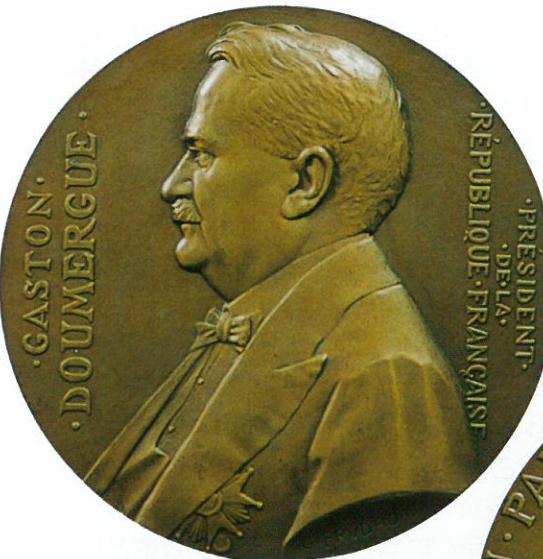
この返歌をルールにしたがって兼好へのメッセージを拾い出すと「よね(米)はなし」「ゼに(銭)すこし」であることが容易にわかる。折句の内容は作歌者の全くの自由である。ところが当の二人、というよりは当時の文学の世界にまで米と対等に貨幣が堂々と登場していることがわかる。米ないし物々交換が一般的と思われる中世日本社会の経済水準を前提にすれば、米同等に貨幣を取扱っていることは一大意識革命・精神革命の発生を物語るものである。

日本ではこの頃から貨幣経済が一般化をはじめ、室町期には本格的とでもいうか国際的一世界的であって東洋的ではない!! — 水準—しかも量質両面における—の貨幣経済の成立をみるのであるが、なぜか人々はこのことについては無知同然のようであって、残念でならないのである。とまれこの輝かしい日本貨幣史のエピソードとして、兼好・頓阿の折句歌問答をミント・クラブの諸兄姉にお伝えするとともに、本稿が決して文学論のための文学論でなかったことの承認をえたいと思う次第である。

[参考文献]

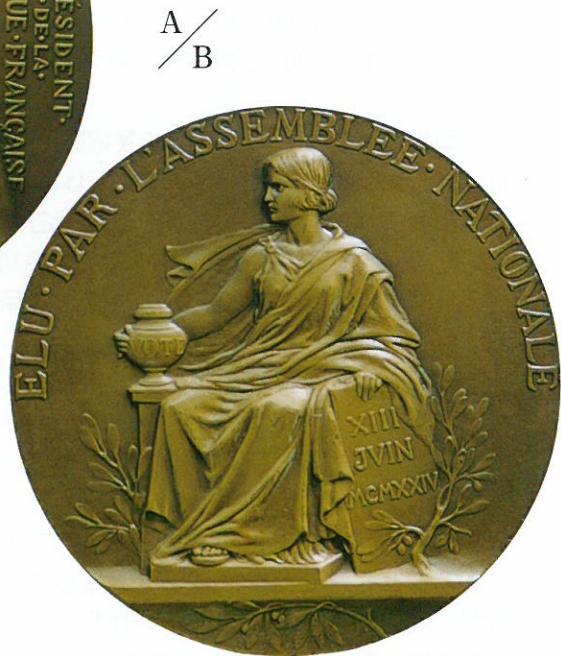
吉田兼好：『徒然草』、頓阿：『続草庵集』 三上隆三：『渡来銭の社会史』 中公新書

造幣博物館所蔵・外國章牌紹介 4



A。ドゥメルグ大統領就任記念牌、表。フランス造幣局製。青銅。直徑72mm。重量150g。右肩からレジョン・ドヌール等勲章の正章を、左胸に同副章を佩用したドゥメルグ大統領の左向上半身肖像。左側に下から上へ「GASTON DOUMERGUE」、右側に上から下へ「PRESIDENT DE LA REPUBLIQUE FRANCAISE」の凸文字。左腕下の斜面に「G·PRVD'HOMME」の彫込署名がある。彫刻は手堅い作風で優れてゐる。文字の配置も良い。

Gaston Doumergue (1863~1937)はフランスの政治家。植民相、産業労働相、文相、首相等を歴任した後、フランス第三共和制第十二代大統領となった。大統領在位は1924年六月から1931年六月迄。



B。全左、裏。上半周縁部に「ELU·PAR·L'ASSEMBLEE·NATIONALE(國民議會により選出さる。)」の凸文字。中央にフランスを象徴する女性の倚像。左手に持つ板に「XIII JVIN MCMXXIV(1924年六月十三日)」の凸文字。右手に持つ壺に「VOTE」の凸文字。Voteは投票の意で英語からの借用語である。1924年六月十三日の議會に於る投票で大統領に選出されたといふ意である。

女性像の下の床に張出しを設けて下部に弦月形の空間を作り、そこに左側の月桂樹の枝の下部を見せるのは圖案上の工夫である。表同様にレリーフと文字の配置の良い手堅い作である。

(元工藝管理官 松岡隆範 記)

平成15年4~6月の貨幣セット販売予定

販売区分	種類	販売予定期価格	販売予定期期	参考
通信販売貨幣セット	敬老貨幣セット	円 2,200	4月以降	セット 193,600
	通常ブルーフォルムセット	7,350	4月以降	138,000
	△(キャラクターメダル入り)	未定	4月以降	_____
	ミントセット(キャラクターメダル入り)	未定	4月以降	_____
通年販売貨幣セット	記念日貨幣セット	円 2,100	販売中	8,300
	△(録音機能付)	3,000	販売中	_____
	ペーパーウェイ	4,000	販売中	4,000
	ジャパンコインセット(フル)	2,000	販売中	7,300

- (注) 1.上記貨幣セットの販売予定期等は変更する場合があります。
 2.参考欄は、13年銘の製造量です。
 3.前号において販売予定期としておりました見学記念貨幣セットとジャパンコインセット(シンプル)につきましては、近年における需要動向を勘案し、平成14年銘をもって販売を終了いたします。
 なお、ジャパンコインセットにつきまして今後は、造幣局コインショップ(関西国際空港内)以外でもご購入いただけます。

第5回アジア冬季競技大会記念貨幣セットの抽選会について ミントクラブ読者も参加

平成14年12月17日(火)午前10時30分から造幣局構内において、第5回アジア冬季競技大会記念貨幣セットの抽選会を行いました。

記念貨幣セットの申し込み受付は11月22日(金)から12月5日(木)まで14日間行いましたが、販売数量を大幅に上回る1,113,687通のお申し込みをいただき、当選倍率は23.45倍となりました。

抽選の方法は、お申し込みいただいた方々のはがきに1~1000までの受付番号をつけ、そのはがき1000枚を1箱に入れて箱の通し番号(1~1114)をつけ、はがき番号と箱番号の抽出をコンピュータにより乱数的に行い、抽出された箱番号とはがき番号の組み合わせにより当選はがきを特定するというものです。

この度の抽選会では、抽選をより公正公平に行うために、このコンピュータによる番号抽出のためのボタン操作を長野オリンピックショートトラック金メダリストの西谷岳文選手のほか、皆様と同様に造幣局の貨幣セットを継続してご購入いただいているお客様名簿の5千番目、1万番目、1万5千番目に登録されているお客様から、それぞれ順を追って電話によりご了解いただきました西宮市の岩永様、豊中市の川口様、大阪市の浦野様を加えた4名の方々にお願いしました。

なお、当選された方につきましては、1月の末から順次製品を発送いたしましたところです。

このミントクラブはエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています



発行所 財務省造幣局

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号

電話 06(6351)5105

造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>

編集者兼発行人 山村 武史

平成15年3月12日発行(第4号)

